

2020年6月10日

各 位

会長就任挨拶

一般社団法人日本アルミニウム協会

会長 岡本 一郎

(日本軽金属ホールディングス株式会社 代表取締役社長)

6月10日の理事会におきまして、令和2年度の会長に選任されました岡本 一郎 でございます。

一昨年に続き2度目の選任となります。新型コロナウイルスで全世界が震撼している大変な年に長い歴史と伝統のある団体の会長という大役を再度仰せつかり、身の引き締まる思いでございます。

まず、感染症でお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、治療中の皆様やご家族に心よりお見舞い申し上げます。また、医療関係者をはじめ感染防止にご尽力されている皆様には心から敬意を表したく思います。

今年1月、内閣府による「令和2年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」におきまして、我が国経済は雇用・所得環境の改善が続き、経済の好循環が進展する中で、民需を中心とした景気回復が見込まれ、令和2年度の実質GDP成長率は1.4%程度、名目GDP成長率は2.1%程度とされておりました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の発生・拡大という、誰しもが予想し得なかった事態により経済活動は大きく縮小し、本年1-3月期の実質GDP成長率は前期比▲3.4%に到っております。世界的に見ましても、IMFが4月に発表した2020年の世界経済成長率は前年比▲3%と大変厳しい状況となっており、4-6月期の成長率はさらに悪化する見通しです。

一方、経済のグローバル化が進展する中、米中貿易摩擦の激化や欧州での英国の EU 離脱など、地政学的リスクが日本企業に及ぼす影響は増大の一途にあります。こうした激動のグローバル経済において、どのような舵取りをしていくか、大変難しい局面であると考えます。

今回石原前会長の後を受け、日本アルミニウム協会会長に就任致しました。継続して日本アルミニウム協会の3本柱である「新規需要の開拓」、「人材育成の強化」、「広報活動の充実」といった業界の基盤ともいべき事業を中心に一層の充実を図りつつ、将来を見据えた事業にも注力していく所存です。

その一つが「アルミ VISION2050」の策定です。本年3月、アルミ業界として長期の地球温暖化防止への対応の大方針として「温暖化対策長期ビジョン(2050年)」を取り纏めました。また、アルミ技術の動向に関しては、産学共同で2年ぶりの「アルミニウム技術戦略ロードマップ」の改訂を近々発表する予定であります。

この2つのスケールの大きい構想をベースに、今世紀半ばを念頭に、アルミ産業の果たすべき役割を整理しつつ、環境等への対応、新規需要の開拓、長期の需要見通しといった3点を主としてアルミ産業の長期的なあり方を構想し、「地球規模の課題に対応しつつ、如何に国際競争力を確保していくか」を練り上げていく所存です。

2019年度に NEDO の事業として採択された「アルミニウム素材の高度資源循環システム構築」の推進にも注力してまいります。現状、アルミ缶では、アルミ展伸材を展伸材にリサイクルするシステムが構築されておりますが、アルミ素材全般を考えるとまだ十分ではなく、将来に亘って安定した仕組みとするため、**product to product** の水平リサイクルシステムを構築する必要があります。この技術開発及び仕組みを構築していきたく考えております。

日本政府はプラスチックごみによる海洋汚染の問題を契機として、ワンウェイプラスチックの使用削減やリサイクルを重点課題の一つとしており、アルミニウムのリサイクル性が改めて注目されています。軽量性、耐食性、加工性という材料としての長所を持つだけでなく、優れたリサイクル性を有する特性や長所を、改めて世の中に訴求することで、アルミ産業が担っていく使命を果たしたいと考えます。

緊急事態宣言解除後も、新型コロナウイルスのリスクを前提とした、新しい生活様式、経済活動が求められます。感染拡大防止に万全の注意を払いつつ、これから1年間、関係省庁、大学の皆様、またユーザー業界の皆様のご指導をいただきながら、木村副会長、竹内副会長と力を合わせ、アルミニウム業界の発展のため、取り組んでいく所存です。

最後になりましたが、皆様のご健勝と業界の益々の発展を祈念いたしまして、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

以 上